

ココロやカラダにお悩み・不安のある方の長期就労を応援する情報誌『いこう』

いこう IKOU!

2023年 春号



第3回折り句コンテスト MIKAKO 賞 (最優秀賞) 受賞作品
(作: ICHIKO さん<ルミノーズ川崎登戸>)

【巻頭特集】

座談会 “就労支援と福祉系専門職の関わり”

福祉系3大国家資格 (社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士)

3福祉士会 会長 × 社会福祉支援研究機構

就労支援の「人」

三菱商事(株) 人事部 健康推進・DE&Iチーム 担当シニアマネージャー

三菱商事太陽(株) 前代表取締役社長 福元邦雄氏

いこう! 就労移行支援事業所へ

地域の中で、キラキライキイキ、明るく輝くーパレット市原市役所前

第3回折り句コンテスト結果発表



一般社団法人社会福祉支援研究機構



福祉系3大国家資格 一般社団法人
 3福祉士会 会長 × 社会福祉支援研究機構
 座談会 “就労支援と福祉系専門職の関わり”

< 3福祉士会 >

(公社)日本精神保健福祉士協会
 会長 田村綾子氏

(公社)日本社会福祉士会
 会長 西島善久氏

(公社)日本介護福祉士会
 会長 及川ゆりこ氏

< 社会福祉支援研究機構 >

理事長 佐野敏夫 | 専務理事 両角康史 (コーディネーター)

2023年2月6日・丸の内ホテル (東京都)にて開催

日本の福祉・介護の仕事においては「3福祉士」と呼ばれる「社会福祉士」「介護福祉士」「精神保健福祉士」という3種類の国家資格があります。3福祉士はそれぞれ目的や仕事内容は異なるものの、「社会福祉」に寄与するため「より多くの人々を幸せにするために」という点で理念を同一にしており、保有する専門的な知識と技術を活かし、身体や精神の障がいがある人や高齢者、生活困窮者など日常生活に困難さを伴う人のサポートを行っています。もちろん、障がい者の就労においても、極めて重要なこの3資格に関わる方々。今回は、3福祉士の資格者団体の会長である皆様と社会福祉支援研究機構にて座談会を開催しましたので、その内容をご紹介します。

◆最近の支援内容について

〈両角〉

本日はお集りいただき有難うございます。はじめに、皆さまの支援内容についてお聞かせください。

〈西島会長〉

私たちは近年、幅広い分野で業務をしておりまして、支援の対象

は子どもから高齢者まで、福祉から教育・司法分野などさらなる広がりをもせています。基本的には日々暮らす中での困り事や課題に対する相談を受けており、皆さまが社会とつながりながら幸せに、より良い状態で暮らしていただけるよう支援を行っています。ここにいらっしゃる介護福祉士や精神保健福祉士の皆さまをはじめ、様々な分野の専門家や地域の方々と共に、役割を果たしていきたいと考えています。

〈及川会長〉

「身の回りのお世話」から始まった介護の仕事ですが、現在は「自立支援」を念頭に置いてサービス内容を決めています。ニーズも多様化しており、介護予防や認知症の方への対応なども求められています。また、資格者の倫理観もより大切になってきました。個人の自宅にお伺いすることが多く、どうしてもプライベートに触れてしまう機会もありますからね。

〈田村会長〉

国家資格化当初の精神保健福祉士の主な役割は精神科病院からの社会復帰サポートでしたが、次第に病院以外でも活躍が期待されるようになってきました。メンタルヘルスの問題を抱える方の地域生活支援や、特に最近では職場で精

精神保健福祉士



精神障がいやメンタル不調のある方へ社会復帰のための助言、地域生活をその人らしく送るためのサポートをする専門職。

社会福祉士



医療・福祉・教育・行政機関などで日常生活において困難や課題を伴う方の相談に応じ、助言や援助を行う専門職。

介護福祉士



加齢や心身の障がいなどにより日常生活を送るのが困難な方に対し、入浴や食事など身の回りの介助を行う専門職。

就労は自己実現や生きる力につながる（西島会長）

神疾患を発症する方が増えているため、職場環境改善なども業務範囲となってきました。また、精神科医療の現場でも患者の高齢化が進んでおり、介護や看取り、成年後見といった課題も出てきているため、今まで以上に社会福祉士や介護福祉士の皆さまとの連携が重要になってきています。

※スーパービジョン：最良のサービスを利用者に提供することを目指して、指導をするスーパーバイザーが、養成されるスーパーバイザーと関わりながら、管理や教育、サポート役としての機能を果たすこと



公益社団法人日本社会福祉士会
会長 西島善久氏
老人福祉施設の生活相談員・施設長・
社会福祉法人理事長を経て日本社会
福祉士会会長に就任。社会保障審議
会福祉部会委員や東大阪市社会福
祉審議会委員なども務める。

◆支援者の健康について

〈佐野〉

メンタルヘルスのお話がありました。ですが、私達が就労移行支援事業や就労定着支援事業を行っていく上で、スタッフの心身の健康をしっかりとフォローすることが今後大きな課題になってくのではないかと考えています。支援者自身が健康でなければ、利用者さんに最大限寄り添っていくことができませんからね。

〈西島会長〉

支援者をサポートする方法としては、現在「スーパービジョン※」があると思います。

スーパービジョンを通じて仕事内容を確認したり、支え合ったりというような体制を整えておかなければならないでしょう。また、支援者も当然人ですから、悩みや不安を聞いてくれる、理解してくれる仲間が必要です。

〈田村会長〉

西島会長が言われた通り、ソーシャルワーカーにおいては、特にスーパービジョンが欠かせないと思います。業務上で自信を喪失してしまった方に対しては安心感の提供や勇気づけが必要ですし、ソーシャルワーカーとして自分自身の考える理想が、ストレスとなって

いる場合には、自己覚知を支え、専門職として葛藤を抱え続けるための手助けを要します。

〈及川会長〉

介護の現場では今、コロナ禍で満足に休みが取れず、精神的にも肉体的にも苦しいと感じている方も増えてきていると思います。そのような方にはセルフケアの仕方を資格者教育の場で伝えておく必要があります。教育というキーワードでは、一般教育の場においても介護について教えるべきだと感じています。介護が必要になってから、初めて介護を勉強する方がほとんどですが、人は皆高齢化していき、介護は家族一人ひとりの大切な役割になりますからね。

◆資格者のスキルアップについて

〈佐野〉

資格者の教育というテーマについては、いかがでしょうか。皆さまは日々の業務で多忙な中、研修等を受けるのも大変だと思えますが、会長職であるお三方からすると継続的な学びを推奨したいところではないでしょうか？

〈西島会長〉

経験を積んでゆくゆくは後輩を育成していくという点においても、



公益社団法人日本精神保健福祉士協会
会長 田村綾子氏
聖学院大学心理福祉学部部長兼心
理福祉学研究科長。現在に至るまで
社会福祉振興・試験センター評
議員、日本ソーシャルワーク教育
学校連盟理事などの要職を歴任。

継続的な学びは必要ですね。当会では、コロナ禍の中、研修の形も多様化してきました。現在、注力しているものとしてEラーニングがあります。いつでもどこでも学べるのが利点ですね。ただし、どうしても座学中心になってしまっているので、演習など、対面による学びについても引き続き取り組んでいきたいと思えます。

〈田村会長〉

学びにおける課題としましては、多忙なあまり、どうしても研修など出席できない方が少なくないことですね。オンライン



(上)
（一社）社会福祉支援研究機構
専務理事 両角康史



(下)
（一社）社会福祉支援研究機構
理事長 佐野敏夫

るためには自己研鑽が必要になります。研修を受けることは、自分のスキルの確認になり、自信を持つことにもつながります。なお、当会では一定の基準をクリアした介護福祉士を「認定介護福祉士」として認定する制度があり、人材育成のためにも、この制度を活用していきたいと思えます。

◆若い世代の人材について
人材育成についての話題になりましたが、若い世代の人材は集まっていますでしょうか？

〈佐野〉

人材育成についての話題になりましたが、若い世代の人材は集まっていますでしょうか？

〈田村会長〉

大学によるかもしれません。私の大学では福祉系の国家資格の人気は保たれている印象です。保護者の方から勧められて入学する学生さんも多いですね。また、精神保健福祉士や公認心理師については、家族や知人がメンタル不調を抱えている、自分が支援者になりたいと考える方もいます。

〈西島会長〉

子どもの頃から福祉を当たり前のものにするために、上手く学校とつながることも大切だと思います。こども園や小学校の卒業式で子ども達の「将来就き

3 福祉士の更なる連携強化を（田村会長）

◆3福祉士と就労移行の関わり

〈佐野〉

3福祉士と就労移行の関わりについて考えてみたいのですが、ここで就労移行の支援者であると共に、3資格を全て保有している加地さんにお話を伺ってみたいと思います。

〈加地氏〉

私は最初に社会福祉士の資格をとりまして、その次に介護福祉士、就労移行支援事業所に入所してから精神保健福祉士を取りました。就労移行支援の現場では、3資格の知識を万遍なく活用しています。求人票を精査したり、利用者が生活に困った際に相談にのるためには社会福祉全般に関する知識が必要です。また、利用者さんの中には障がいや高齢のために足腰が弱くなっている方もいらっしゃるし、そのような方々を支援するためには介護の知識が必要になります。さらに、利用者層の中で最も人数の多い精神障がいのある方に対応するためには、精神保健福祉士の知識やスキルが不可欠です。

〈両角〉

就労移行支援において3資格がいかに重要かが分かりました。ではあらためて、3資格の代表であるお三方から、各資格と就労移行の関わりについてお話しただけませんか？

〈西島会長〉

お一人おひとりが望まれていることをしっかり把握した上で、ご希望の就労を実現するために、必要な支援を行えるよう尽力したいと考えています。仕事をしたい賃金を得て好きなものを買う



就労移行支援事業所
就労定着支援事業所
所長・サービス管理責任者
加地久美子氏

たい職業」として、看護師さんは必ず挙がるので、これにソーシャルワーカーも挙がるようになってくれればうれしいですね。子供向け職業体験テーマパークなどで、ソーシャルワーク体験をできるようにするのも良いのではないかと考えています。

〈両角〉

以前、某有名女優がケースワーカーとして活躍したドラマがありました。このようにドラマなどでソーシャルワーカーを題材にするのも良いですね。例えば、子どもの頃から障がいのある人を身近に感じることに。それが、共生社会なのだと思います。

〈及川会長〉

資格をとって終わりではない、というのはその通りですね。認知症の方や精神疾患のある方のケアまで、多岐にわたるニーズに応え

資格をとって終わりではない、というのはその通りですね。認知症の方や精神疾患のある方のケアまで、多岐にわたるニーズに応え

資格をとって終わりではない、というのはその通りですね。認知症の方や精神疾患のある方のケアまで、多岐にわたるニーズに応え

一般教育の場でも介護について教えるべき（及川会長）



ということ。それも人生にとって大事な事ですし、自己実現という面でも、生きる力にもつながっていくと思います。仕事を通じて夢を叶えることはこの上なく素晴らしいことですからね。

〈及川会長〉

介護福祉士は基本的には生活を営む上での支援がメインです。で、就労をされる方や就労を希望される方の仕事に対する意欲増進や身体的な負担を軽くするために支援をさせていただきたいと考え

ています。お一人おひとりが持っている能力を十分に発揮していただくためにも、生活補助の持つ力は大きいのではないかと思っています。

〈田村会長〉

例えば、精神障がいがあった長い間入院していて御歳をめされた方も働きたいとおっしゃいます。やはり、働くことは誰にとつても自分らしく生きるための一つの道筋として、目標にもなるのでしよう。現在、精神障がいのある方の雇用率が増えており、それはとても喜ばしいことです。障がい特性に基づく合理的配慮が提供されれば、能力を発揮し、自己実現にもつながると思います。障がいのある方と職場の関係をとり持つ支援もしていききたいですね。

◆各資格、これからの展望

〈両角〉

最後になりますが、これからの展望などをお話いただければ幸いです。

〈西島会長〉

「地域共生社会」や「地域包括ケア」が叫ばれる中、社会福祉士の地域における役割が高まってきています。私たちの支援の原点は、利用者さんお一人おひとりにしっかりと向き合うことですが、加えて、周囲の方々にも働きかけていき、地域づくりにも活動を広げていけたらと考えています。そしてより多くの人たちの目に留まるようになり、ソーシャルワーカーを身近な存在として理解していただき、その重要性をPRしていきたいです。

〈及川会長〉

介護福祉士と障がい者就労支援の直接の接点は、職場として選んで働きに来てくれたタイミングだと思えます。仲間となつた方がイキイキと働いて活躍していけるような職場環境や受け入れ体制をつくっていったらと思います。何か問題が発生した時は、声を上げることのできる環境も大切です。それをすることで、組織全体の活性化やケアの質の向上にもつながっていくと思えます。

〈田村会長〉

同じ福祉系の三資格ですけれども、今まで、この座談会のように意見交換する機会はありませんでした。団体間の連携を強化することによって、政策に働きかけ、また各利用者さんに対してさらに良い支援ができそうだと感じました。メンタル不調や精神障がいのある方の就労支援については、飛躍的にそのニーズが増しており、本日は私達の役割の重要性を再認識しました。当事者の多様な社会参加の促進に向けて引き続き、尽力したいと思えます。

〈佐野〉

それぞれのお立場からの利用者さんに対するアプローチの仕方について、どの視点もとても大切で、欠かせないものであると再認識しました。皆さま方のお力を借りながら、私達は就労移行支援という働く喜びを一人でも多くの方に感じていただくための支援を実践していきたいと思えます。今後とも、様々な形で連携をさせていただければ幸いです。皆様、本日は本当に有難うございました。

（公社）日本精神保健福祉士協会

〒160-0015
東京都新宿区大京町 23-3
四谷オーキッドビル 7階
TEL：03-5366-3152
FAX：03-5366-2993
URL：https://www.jamhsw.or.jp/



（公社）日本社会福祉士会

〒160-0004
東京都新宿区四谷 1-13
カタオカビル 2階
TEL：03-3355-6541
FAX：03-3355-6543
URL：https://www.jacsw.or.jp/



（公社）日本介護福祉士会

〒112-0004
東京都文京区後楽 1-1-13
小野水道橋ビル 5階
TEL：03-5615-9295
FAX：03-5615-9296
MAIL：webmaster@jaccw.or.jp
URL：https://www.jaccw.or.jp/





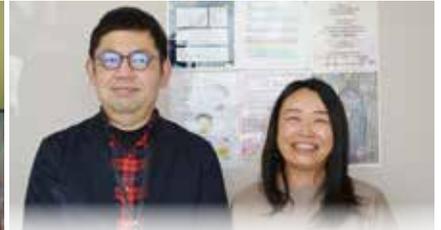
いこう！就労移行支援事業所へ！



日当たりの良いおしゃれな外観の事業所(左上)と通り抜ける風が心地よい事業所内



ボランティアやイベントで大活躍のポップコーンメーカーと中華まん蒸し器



取材に応じてくれたパレット市原市役所前の三橋施設長(左)と(一社)飛翔の長谷川本部長(右)

＜今回お伺いした事業所＞



就労移行支援事業所

パレット市原
市役所前

地域の中で、キラキライキイキ、明るく輝く

全国の就労移行支援事業所では、利用者の心身の健康維持と就労に向けた技能取得、安定した生活リズムの確保など、多様なニーズに応えるサービスを展開しているが、そこには事業所ごとの特色や魅力がある。本コーナーでは実際に事業所に訪問し、見て、聞いて、触れて、感じたことをレポートする。

地域共生・地域密着がキーワード

千葉県千葉市、銚子市、市原市に3拠点を展開するパレット。今回はパレット市原市役所前にお伺いしたが、まず始めにこの事業所の特長について、ちば地域若者サポートステーションも運営する(一社)飛翔の本部長であり、相談支援専門員でもある長谷川さんが教えてくれた。

「当事業所は、地域共生、それもかなり密度の濃い関係性を持って運営しています。そもそも市原市自体が地域福祉計画である『地域共生社会推進プラン』の中で『障がい者福祉共生プラン』を定めていたり、障がい者の就労支援についても目標を明確に掲げたりと、福祉分野のレベルが高い自治体です。私たちは、その期待に応えられるような取組みを行っています」

パレット市原市役所前の施設長である三橋幸太さんが続ける。

「利用者さんには地域の飲食店や学習塾、パイヤ農園を見学したり、農園では収穫体験をしてみたりと、地域と触れ合う内容のプログラムを用意しています。街歩きをして公衆電話やAEDなど、指定のものを探すといった地域を知るためのゲームもあります。地域情報フリーペーパーに利用



利用者が記事を投稿した情報誌の該当ページ。発行部数は3,000にのぼる。

者さんの街歩きレポートを寄稿し、掲載してもらったりもしています。これは文章力や表現力を養う訓練にもなっています」

さらに、地域のイベントで利用者さんが中華まんを販売したり、子ども食堂のためのポップコーンを作ったり。事業所はその存在感を増し続けている。

SDGsを通じて地域と触れ合う

市原市はSDGsの達成にも力を入れており、同市にはSDGsの達成を志す団体を認定する制度があるが、パレットはこの認定を受けている。

「子ども食堂へのボランティアやゴミ拾い活動など、以前から実施していた活動が市原市のSDGsの取組みに合致した形です。ゴミ拾いなどでは利用者さんが地域の方に直接お礼を言われたり、SNSで感謝の投稿をされたりしました」(三橋施設長)

「日本では健常者と障がい者が日常生活で触れ合うことがほとんどない中で、障がいのある方が地域社会で活躍することは非常に大切だと思います。全ての人が地域の風景の中に自然に馴染んでいくこと。それが共生社会ではないでしょうか」(長谷川本部長)

SDGsに関する取組みは、利用者さんの心の安定にもつながるといいます。

事業所お問合せ先情報

●パレット市原市役所前
千葉県市原市国分寺台中央 1-4-12
TEL : 0436-26-6203

●パレット稲毛海岸
千葉県千葉市美浜区高洲 3-14-5-4F
TEL : 043-305-5053

●パレット銚子
千葉県銚子市松本町 1-993-1F
TEL : 0479-21-7055

<https://www.palette-chiba.jp/>



市原市から贈られた当事業所のSDGsの取組みに対する認定書

「支援員は利用者さんにしつかりと寄り添いながらも、お一人おひとりの自立性を大切にしながら接しています。訓練では、皆さま資格学習をしたり履歴書を書いたり、読書をしたり。休憩時間には利用者さん同士のおしゃべりに花が咲いていますよ」(三橋施設長)

「当事業所では、いつでも障がいのある方からのご相談をお待ちしています。一歩踏み出してみると、見える景色は必ず変わってくると思います。就労移行支援を利用しようかどうか悩んでいる方は、ぜひ一度相談してくださいね。お待ちしております」(長谷川本部長)

開放感のある広々としたスペースに、楽し気な笑い声が聞こえるこちらの事業所。市原市役所と目の鼻の先に所在しており、アクセスも良好。興味のある方は、一度ふらりと立ち寄ってみてはいかがでしょうか。

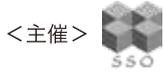
第3回折り句コンテスト結果発表



前号で募集をしました第3回折り句コンテストへのご応募、誠に有難うございました。
ここでは、皆さまの素晴らしい作品の中から、優秀作品5作品を表彰いたします。



折り句コンテスト開催団体



一般社団法人社会福祉支援研究機構



日本折り句協会

<http://www.oriku.or.jp/>

折り句作家 MIKAKO 賞



『じんせいいろ』

ICHIKO さん

(ルミノーズ川崎登戸／神奈川県)

〈表彰の言葉〉

人生の色という言葉から紡ぎだされた折り句がそれぞれの人生に彩を与えてくれ、勇気と元気を届けてくれる折り句です。背景の色遣いも優しく、読んだ人が明るい未来を感じられるような素敵な作品です。

※当誌の題字（タイトル）も書いてくれている、折り句作家 MIKAKOさんについては P12 をご覧ください。

社会福祉支援研究機構 理事長賞

『あかきたなはまやらわん』



(フィン藤崎／福岡県)
オカさん

〈表彰の言葉〉

『あかきたなはまやらわん』というまくら（頭文字）を使って上手にご自身の気持ちを表されている斬新な折り句、桜吹雪の絵も思いの強さと勢いを感じます。

『だいすき』



(フィン大橋北／福岡県)
Laursonさん

〈表彰の言葉〉

大好きな人からの言葉を大切に生きる。その経験に共感する方も多いと思います。『だいすき』の言葉と絵のタッチが優しい気持ちにさせてくれます。

テキストデータ部門賞

『おだのぶなが』

星田さん（アルファ日暮里駅前／東京都）

おけはざまの戦いで今川破り
 だんだん鉄砲の世に移せし
 のぶながの
 ぶは天下に響き渡り
 ながしのの戦いで武田に勝利し
 が、本能寺にて果てるなり



〈表彰の言葉〉 歴史上の知名度ナンバー1の織田信長。彼の半生が見事に折り句で表現されています。歴史的にみても、織田信長についての重要事項が網羅されており、まさか信長の歴史が折り句で表現できるとは思ってもみませんでした。歴史の教科書に載っても良いのでは？

『ゆきやこんこ』

銀河さん（フォーム竹ノ塚／東京都）

ゆうぐれ時
 きろにつく
 やっぱり
 こんなに寒いと
 しんしんと
 こなゆきが舞い降りる

〈表彰の言葉〉 まるで俳句のように、状況の浮かぶ折り句です。今日の用事を済ませ、足早に家路に急ぐ。気温は寒いけれど、心はほんのり温かい…そんな雰囲気の伝わる句です。「明日の朝には積もっているのかな」そんな気ないことを考えて過ごす日常こそ、宝物です。

第3回『イコウ！春の写真コンテスト』のご案内

日頃通っている事業所やあなたのお住いの街の一コマを全国の方々に写真で紹介してみませんか？

❖テーマ

あなたの通う事業所のある街の一コマ～ココロがときめいた身の回り被写体を切り取ってみてください～

❖募集部門

- ①スマートフォン（スマートフォン、タブレット）部門
- ②デジタルカメラ（一眼レフカメラ、コンパクトカメラ等）部門

❖賞および賞品

- 審査委員長賞（各部門1名）ポイント
 - 社会福祉支援研究機構 理事長賞（各部門1名）
- ※受賞作品に審査委員長からのコメントを添えて、額に入れて進呈いたします。

❖募集期間

2023年3月1日（水）～2023年4月18日（火）16時

❖応募方法

作品に作品名と氏名（ペンネーム可）を添えて、ご契約の就労移行支援事業所（社会福祉支援研究機構加盟）にご提出ください。
 ※本誌に掲載させていただく場合は、事前にご連絡いたします。

❖結果発表

イコウ次号＜2023年夏号＞の誌面にて受賞者を発表いたします。

主催：一般社団法人社会福祉支援研究機構



＜イベントのご案内＞

※スマホでも一眼レフカメラでも参加可

審査委員長・熊切大輔先生による
 「スマホやカメラで楽しむ！写真ポイント講座」

2023年4月7日（金）13：00～13：50

実施方法：ZOOM（ウェビナー使用）

講師：熊切大輔先生

（公益社団法人日本写真家協会（JPS）理事）

※詳細は事業所内掲示のご案内等でご確認ください。



昨年度開催のコンテスト
 審査委員長賞

「初夏の光」

いくちゃんさん
 （パスセンター大船／神奈川県）

就労支援の人

障がい者の就労においては、様々な立場から関わる支援者の存在が欠かせません。ここでは、支援者の方々に「人となり」や「経歴」、「モットー」などを自由に語っていただきます。

三菱商事株式会社 人事部 健康推進・DE&Iチーム 担当シニアマネージャー
三菱商事太陽株式会社 前代表取締役社長
中小企業診断士 / 精神保健福祉士 / 産業カウンセラー / 防災士

福元邦雄氏 Kunio Fukumoto

福元氏のオウンドメディア

福元邦雄の千朝千話 <https://www.kuniofukumoto.com/>



Profile

1963年東京都生まれ。1986年東京大学法学部卒、三菱商事株式会社入社。広告子会社社長やシンガポール駐在を経て三菱商事の特例子会社である三菱商事太陽株式会社の代表取締役社長就任。社長在職中、在宅の障がい者向けにIT技術養成・採用斡旋の取組みを開始し、2020年度厚生労働大臣表彰「輝くテレワーク賞」特別奨励賞を受賞。43歳から始めた剣道は五段の腕前を誇る。

社長業の傍ら精神保健福祉士を取得

学生の時からイベントの企画が好きな私には、大学卒業後に三菱商事に入社、主に広告やメディア事業に携わりました。35歳の時には関連会社の取締役となり、コンテンツビジネスや現在のユーチューブのようなビジネスモデルの構築などを行っていたのですが、37歳の時にレジヤームの事故で左手4指を欠損、身体障害者手帳を保有することになりました。

仕事の面では先の事故の直後に同社の社長に就任したり、中小企業診断士の資格を取得したりということがありましたが、この時にある部下の方がメンタル不全に陥ってしまい、休職。その後、この方は退職を余儀なくされてしまいましたが、これをきっかけにメンタルヘルスについて学び始め、「メンタルヘルスマネジメントⅡ種」の資格を取得。その後、52歳の時に三菱商事の特例子会社である三菱商事太陽の社長に就任し、社長業を行いながら、現場実習などを経て精神保健福祉士の資格を取得しました。

テレワークのパイオニア企業として

三菱商事太陽は1983年に社会福祉法人太陽の家と三菱商事によって設立されました。太陽の家の創設者であり、三菱商事太陽の初代社長である医師、中村裕（なかもらゆたか）博士は、「障がいがあっても自宅で働くことができる」と、コロナ禍をきっかけとし

生きづらさに負けない、働きづらさに逃げない

て現在のようにテレワークが浸透する40年近く前から、テレワークのような働き方を提唱していました。ちなみに、中村博士はパラスポーツの振興を図られ、1964年の東京パラリンピックの招致に尽力して「日本のパラリンピックの父」と呼ばれている方です。

なお、三菱商事太陽はネット環境を活用したテレワークのパイオニアとして早くから在宅勤務制度を導入して実績を積み重ね、2020年には厚生労働大臣表彰である「輝くテレワーク賞特別奨励賞」を受賞しました。

テレワークにおいて大切なこと

ここで、私がテレワークにおいて大切だと考えることをお話させていただきます。テレワークに従事される方には、ぜひ「業務に従事している」という意識を大事にしてほしいと思います。自宅で仕事をするということは、人によっては必ずしも効果的ではないと思います。当然、仕事的环境もオフィスのようには整っていません。「他者の目」も少なく、誘惑も多いことでしょう。

だからこそ、オフィス業務以上に意識を持ち、ベストなパフォーマンスを発揮して欲しいと考えています。それができる方にとっては、

テレワークは障がいのある方にとって仕事で成功体験を積むことのできる「機会の場」として重要なものとなるでしょう。

全てのの人に求められる「生きる努力」

全ての生きとし生けるものには「生きる努力」が必要だと思います。ここで、就労を志す障がいのある方にスローガンを贈ります。それは「生きづらさに負けない、働きづらさに逃げない」ということ。人によって、障がい内容によって、生きづらさは様々でしょう。一時的なものもあれば慢性的なもの、身体的なものや精神的なものもあります。このしんどさや憂鬱さに負けない。

働きづらさというの、人間関係や業務環境によって人それぞれでしょう。やりにくい人や、やりたくない仕事に出くわすこともあるでしょう。共生社会では多くの人が関わり合っており、どうしても他者との関係において変えられないことがあります。しかし、自分自身の中で物事の受け止め方は変えることができます。仕事において、居場所と出番は与えられるのではなく、勝ち取るものです。つらいことがあっても、できれば笑顔で。それが、「働く」ということではないでしょうか。





最新の取り組みのご報告

オンライン講座「折り句を描こう！」開催

「繋がってるよ!笑顔になろうよ!」第41弾



1月7日、「繋がってるよ!笑顔になろうよ!」第41弾としてポエムピクチャーアーティスト・折り句作家のMIKAKO先生より折り句の書き方についてレクチャーがありました。折り句とは、古くから日本にある文化で、言葉のひとつひとつを頭文字にとって文章にしていくものです。その成果でもある折り句コンテストの結果発表が今号に掲載されておりますので、こそちらもぜひご覧ください。



〈ふれあい愛の募金〉寄贈式に出席

ラフィオ太田（群馬県）が活動助成金を寄贈されました



（一社）生命保険協会群馬県協会は、群馬県内の会員会社において生命保険業務に携わっている役職員約5,000名の方々のご協力のもと、募金活動を実施し、県内で社会福祉のために活躍されている8団体へ活動助成金を寄附しています。その中の寄贈先の一つとして当機構事業所のラフィオ太田が選定されました。1月18日にその寄贈式があり、山内代表理事と当機構 両角専務理事が出席しました。



後楽園にてプロレスの試合を提供

プロレス団体「HEAT-UP」旗揚げ10周年記念大会に参加



1月31日、「繋がってるよ!笑顔になろうよ!」の「プロレス式トレーニング」プログラムでトレーナーを務めてくれているTAMURAさんが主催しているプロレス団体「HEAT-UP」の旗揚げ10周年記念大会が後楽園ホールにて開催されました。この大会の試合に当機構が提供として参加。試合前の花束贈呈と記念撮影には当機構の佐野理事長が登場し、熱気あふれるプロレス大会を盛り上げました。



厚労省 障害者雇用対策課 小野寺課長 講演

当機構の第8期総会をオンラインで開催



1月26日、当機構の第8期総会がオンラインで開催され、総会後は厚生労働省職業安定局の障害者雇用対策課長である小野寺徳子様より、「障害者雇用の現状と今後の方向性」というテーマでご講演をいただきました。

ご講演では、主に「障害者雇用の現状」「雇用施策と福祉施策の連携」「障害者雇用の今後の方向性」「雇用の質の向上に向けて」の4項目について説明いただきました。ご講演後の質疑応答では、当機構加盟事業所の皆さまから質問が投げかけられたりと、障がい者雇用の今後を思索する、熱の入ったやりとりがありました。



ますます広がり続ける支援の輪

当機構加盟事業所は

79事業所

2023年2月1日現在

一般社団法人 社会福祉支援研究機構
加盟就労移行支援事業所

今後も日本各地で開所・加盟が
予定されています。



❖題字の作者



1981年山口県岩国市生まれ。18歳の時イギリスに短期留学。路上アーティストに感銘を受け「どこかで誰かの力になりたい」と思い、OLのかたわら活動を続け25歳で出版を機に独立。その後、東京に拠点を移し、ニッポン放送出演やラジオパーソナリティなどを務め、気持ち伝わる筆ペン講座や講演活動を行い、活動の場を広げている。2011年より全国1万人折り句キャラバン〜10代のみならず折り句でありがとうを伝えよう〜をスタート。

MIKAKO ポエムピクチャーアーティスト / 折り句作家

❖誌名『イコウ』について

本誌名『イコウ』には、就労移行支援事業所の「移行」やポジティブかつアクティブな「行こう!」というフレーズからのイメージに加え、読者の皆さまがほっと一息つくことのできる「憩う」タイミングで読んで欲しいという想いが込められています。ぜひ、末永くご愛読いただければ幸いです。



機構加盟の就労移行支援事業所の利用者さんの作品を募集しています

『イコウ』では、皆さまからの次のような作品を募集しています。

写真（スマートフォンでの撮影可） / イラスト（手書き・グラフィックデータ問わず） / 川柳 / 俳句 / 短歌 など

ご応募いただいた作品は、本誌表紙や誌面上でご紹介いたします。

※ご応募作品数によっては、掲載できない場合もございます。作品はイコウ編集部のメールアドレスまで「データ形式で」お送りください。

※作品には作者名（ペンネーム可）を添えてご応募ください。就労移行支援事業所による利用者作品の一括応募も可です。

❖イコウ-IKOU!- 編集部のご案内❖

❖社会福祉支援研究所株式会社内イコウ編集部 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-4-21 サンパーク高田馬場109❖

発行人：佐野敏夫 / 編集長：大槻一敬 / 副編集長：古澤和也

TEL：050-5437-2755 / E-MAIL：hensyuubu@social-so.net

社会福祉支援研究機構の目指す 「就労移行支援」

① 一人でも多くの“一般就労”を実現

② 最適、最短の長期の“一般就労”を実現

③ “一般就労”実現の輪を全国に

就職実績累計

令和4年3月31日時点

2,272名就職

資格合格実績累計

令和4年6月30日時点

8,517名合格

目指せる資格は70種類以上

<目指せる資格一例>

- ❖P検(ICTプロフィエンス検定協会)❖ ❖ビジネス法務基礎★
- ❖ビジネスプレゼンテーション基礎★ ❖メンタルヘルス基礎★
- ❖パーソナルキャリアリスト検定 ❖ビジネス実務マナー3級❖
- ❖秘書検定❖ ❖サービス接客検定❖
- ❖ビジネス文書検定❖ ❖ビジネス実務法務検定試験
- ❖色彩検定3級❖ ❖コミュニケーションリーダー2級★
- ❖ピアカウンセラー★ ❖コミュニケーション基礎★
- ❖高等学校卒業程度認定試験(高卒認定試験)
- ❖ナラティブメディエーター講座

★…試験免除プログラム対象資格 ❖…事業所内受験対象資格



一般社団法人
社会福祉支援研究機構

<https://social-so.net/>

